事例No.	2637
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	特定非営利活動法人エコパル化女沼

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・地域運営組織

事例種類	地域活性化

事例内容・タイトル

特定非営利活動法人エコパル化女沼

出典

平成29年度ふるさとづくり大賞事例集

特定非営利活動法人エコパル化女沼　　宮城県大崎市

概　　要



亜種ヒシクイやマガンなどのガン類の重要越冬地として「化女沼（けじょぬま）」がラムサール条約湿地に登録（平成20年10月30日）されたことを契機に、保全と賢明な利用を担う地域組織として、化女沼周辺の４地域の住民が中心となって組織したのが「特定非営利活動法人エコパル化女沼」である。

主にラムサール条約の主たる目的である外来種の駆除、環境調査などの「保全」と里地里山の自然体験を通じた「広報・教育・参加・普及啓発」活動を精力的かつ、継続的に実施している。

評価された点



・地元住民による、自律的な環境保全活動と次世代育成への注力が評価できる。
・ラムサール条約登録湿地の環境保全活動をしながら、子ども・保護者・地域住民の環境教育に寄与している。地域資源の保全のために、住民が自立的・意欲的に取り組んでいる点が評価できる。
・ラムサール条約締結を受けて、保全とともに里山自然体験事業、広報、啓発、教育事業を継続的に展開し、地域資源を守っている。
・沼地の保全と整備、管理は様々な自然条件があるため、住民活動としても多くの課題との戦いの連続でもある。里地里山活動等と連携させて、多様な活動の中心軸の形成を巧みに継続させている。